【ＣＨＡＮＧＥ（総合的な学習の時間）】領域提案

探究する学びを創る
～多様な視点で探究する子ども～

１．研究テーマ設定の理由

（１）学校提案とかかわって

子どもは本来活動的であり，ある事象について一生懸命問い続ける活動をすることで，自ら学ぼうとする意識が高まり，多様な視点で探究しようとする力が芽生えてくると考える。「学びをデザインする」とは，子どもたちが自己や仲間の考えを基に，主体的に探究活動や課題解決をしていく学び方ができる力とし，ＣＨＡＮＧＥでも，子どもたちの主体性を活かした学びをさせたいと考える。

近年の急速な社会構造の変化により，新しいメディア技術の発達，家族や地域社会の変化，社会の風潮の変化などがあり，子どもたちの社会環境もそれらに伴い，以前よりも大きく変化してきている。多大な情報収集などによって，子どもたちの趣味の広がりや活動範囲が拡大してきた。また，家族や地域社会の人間関係の希薄化のため，子どもの心の成長の糧となる生活体験や自然体験の機会が減少したり，子どもたちの人間関係を構築する力や社会性の減少といったことが生じたりしている。このようなことから，現代の子どもの生活スタイルの現状を踏まえた上で，今，子どもたちにどのような学びをさせ，どんな力を身に付けさせるのかを考慮しながらＣＨＡＮＧＥの学習をすすめていく。

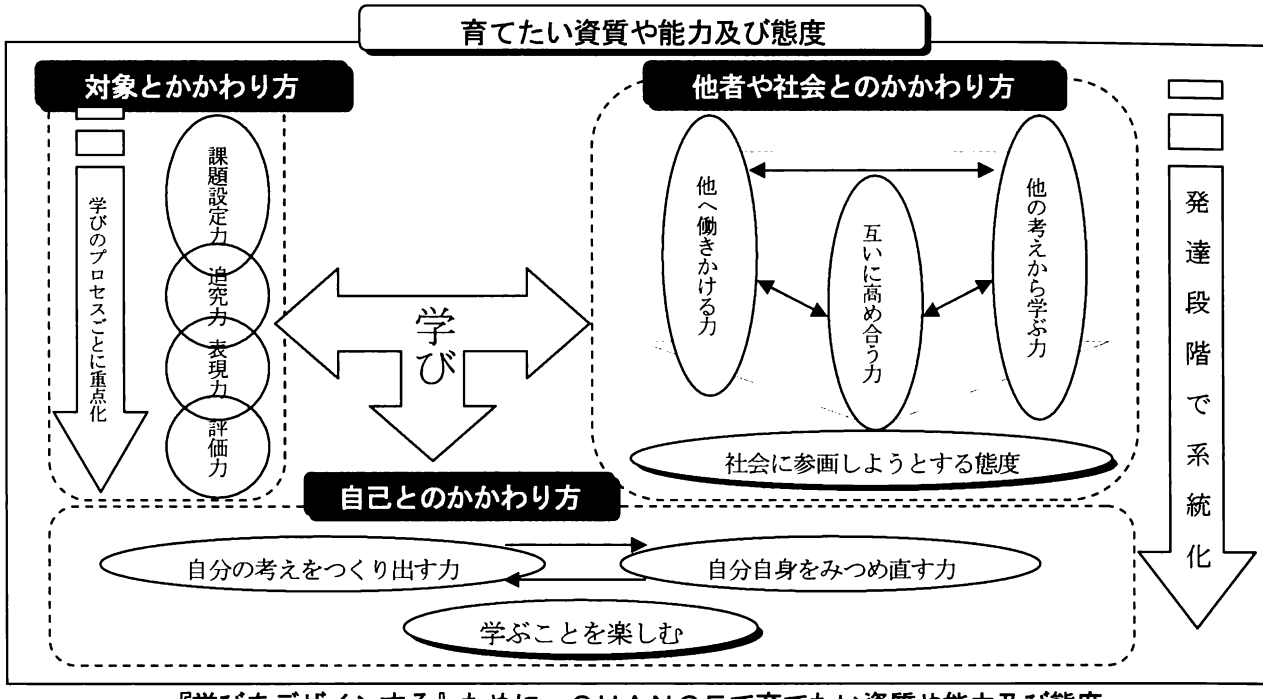
ＣＨＡＮＧＥの学習は，一つの事象について，子どもたちが様々な「問い」をもち，それらを基に学習展開することが土台となる。そして，自己の持ち味や良さを十分に発揮させ課題解決していくことが子どもたちにとって楽しい興味のある学習活動だと捉えている。

また，事象を単に知識として習得するだけではなく，子どもたちには「ひと・もの・こと」という具体的な対象とかかわる中で認識させ，それらを追究する過程を通して深化させていく学び方を獲得させたいと考える。子どもたちには，「ひと」との出会いを通して，「ひと」の素晴らしさに気付かせ，「ひと」とのコミュニケーションを広げていく喜びを感じさせたい。また，「もの」や「こと」を通して，身近な地域の人々の生き様に触れ，その「ひと」の思いや願いを知り，自己の更なる成長へつなげていきたい。そして，子どもたちが「学びをデザインする」ことで，主体性のある学びの良さに気付き，自ら何かを学ぼうとする意欲が増していってほしいと願っている。

（２）ＣＨＡＮＧＥでめざす子ども像

ＣＨＡＮＧＥの学習では，価値ある課題を解決しようとすることによってやり遂げるという学習活動の経験を与えることができる。その中で，下記のような子どもの姿をめざし，研究を進めていきたいと考えている。

① 社会的に価値のある課題を自ら設定できる子ども
② 課題に向かって全力で探究できる子ども
③ 多くの情報から自分に必要な情報を取捨選択できる子ども
④ 対象について，多様な視点で探究できる子ども
⑤ 対話を通して，仲間の意見に共感したり，自分の考えを見つめ直したりできる子ども



『学びをデザインする』ために，ＣＨＡＮＧＥで育てたい資質や能力及び態度

２．ＣＨＡＮＧＥにおける『学びをデザインする子どもたち』

多様性・複雑性の強い傾向にある現代を生きていくために，今の子どもたちに求められる力は「どれだけ知っているか（知識・技術の習得）」よりも，「どれだけ追究できるか（方法の獲得）」だと考える。そこで，ＣＨＡＮＧＥにおける『学びをデザインする子どもたち』をめざすため，子どもたちには「何を学ぶのか」だけではなく，「どのように学ぶのか」ということにも目を向けさせたい。受け取った知識や技術を鵜呑みにするのではなく，「どうしてそうなるのか。」「なぜなのか。」と，表面的に見える部分だけでなくさらに深い部分を探究し，その問題について深く考える態度を育てたい。

子どもたちが様々な「問い」を自分自身や仲間に投げかけ，課題について真剣に向き合い，より豊かな学びを創っていけるＣＨＡＮＧＥの学習をめざしたい。

（１）本年度の実践から「学びをデザインする子どもたち」

まさたか：ほりさんに聞いたことを言っていい？まだ早い？ほりさんに聞いていみると，農薬が嫌だからと言っていて。農薬のレインコートを着たら守れるんだけど，夏になると暑い日とかはレインコートの中で暑くて死んでしまうこともある。

みゆき：農薬をまくときは，手袋，マスク，長袖で誰もいないところでやってください。農薬をすったら，死んでしまうから。土の栄養も消えてしまう。全部消してしまう。農薬は毒薬。なんで，農薬を使って大量生産をして，国の基準をしたまわったら作ってもいい。出荷できる。うわまわっているときもある。犯罪もなる。基準をこえる農薬を使用してはいけない。

ひでき：質問。基準をうまわっているものをたべてしまったらどうなるん？

まり：私も聞いてみました。農薬の野菜を食べたら，虫も殺してしまうぐらいから人間にも良くない。消費者の安全を考えて。お金をかかってもこだわっている。みんなにも全力を尽くしている人がいることを知った上で，考えて欲しいと思います。

振り返り：たかまさの発言から農薬が身体に及ぼす影響について，それぞれが調べてきたことや聞い

てきたことをつなげて発言することができた。しかし，たかまさの考えやみゆきの考えに対して，「本当に農薬をまいたら体に悪いのか？それならなぜ多くの人は農薬をまいているのか？」「自分たちの畑はどうしていくのか？」など，立ち止まって吟味する場面があれば，もっと学びが深めることができた。ここが子どもたちが学びをデザインしていく場面だった。

（2）CHANGEにおける学びをデザインする子どもの姿

	3年	4年	5年	6年
課題解決	教師と共に単元全体の見通しをもって学ぶ	対象から課題を見いだして追究する	対象について広い視野から課題を見いだして追究する	対象について広い視野から課題を見いだして追究し，自分の生き方を考える
対話	友だちの考えにかかわり，違いや同じところがわかり，新たな考えをうみだす	多様な考えに進んでかかわり，他者とともに新たな考えをうみだす	多様な考えに進んでかかわり，三位一体の対話で自己の変容に気づく	多様な考えに進んでかかわり，三位一体の対話で自己の変容に気づく
学び方	学び方を学び，対象について必要なことを集め，表現する	対象を的確に観察，調査し，目的に応じて，読み取ったり，まとめたりする	具体的な観察ばかりでなく間接的な資料をもとに，対象を的確に観察，調査し，目的に応じて活用する	間接的な資料を理解し，対象を的確に観察，調査し目的に応じて活用する

（表１　子どもたちが学びをデザインする姿）

３．研究の展望

ＣＨＡＮＧＥの領域提案である「探究する学びを育てる」ために，以下のようなことを大切にして研究を進めていきたい。

●子どもが夢中になり，主体的に学ぶ単元

子どもが夢中になり主体的に学ぶためには，子どもが問題意識をもち，「調べてみたい」「やってみたい」と強く思えるような単元を選定したいと考える。子どもが興味関心をもつ教材，子どもが感動を覚える単元，子どもにとって身近で実態に沿った単元などを選定し，子どもにしっかりとしたねらいをもたせるようにしたい。そして，子どもたちが「もっとこうしたい。」と思うように，直接体験，仲間と協同しながらの活動，身体を使った活動，知恵を働かせて行う活動など「ひと・もの・こと」との出合いを多く取り入れた内容にする。

●探究に値する課題設定

子どもが設定した課題が，例えば「紀ノ川調べ」「環境について」など漠然として何をどのように調べるのか不明なものにならないようにしたい。子どもの着想を活かす教師の支援を工夫し，子どもが追究したいことを明確に示した有意義な課題設定を行うことを心がける。

●対話の充実

全体学習の場は，子ども同士で意見を伝え合い練り合う対話が中心となるようにしたい。指導者の発問に対して，一問一答で子どもが答える発言だけではなく，仲間の意見についても自分の考えを発言できる力を育てたい。指導者が話し合いの方向付けをしたり整理したりする役目を担い，子どもたちが主体的に発言できるように促していきたい。他者の考えを聞いて，自分の考えと照らし合わせることで，自分の考えを確立させていく大切な意見交流の場と考える。

●ひとり学習の充実と学びの質の変容

魅力的な学習教材と出合い，一つの事象について真剣に向かうことで個々の課題が生まれ，ひとり学習の質が高まっていく。学びの質を高めていくためには，子どもがどのようなひとり学習をしているのかを教師がしっかりみとり，必要な支援をすることが大切である。

子どもが学びを進めているノートや作文，発言から個々の学びをみとり，子どもたちの変容を把握していく。個々で調べていることにコメントをし，個に応じた支援をすることで，子どもの学びを深め，全体学習へとつないでいく。

個々の学びを深める場

〔ひとり学習〕

一人ひとりが，価値ある課題に向かってひとり学習を深めることで，多様な考えが出てくる。その考えを，全体学習で活かすことで学びが深まる。

〔グループ学習〕

ＣＨＡＮＧＥのグループ学習の特徴として，類似している課題をもった子ども同士でグループを作ることがある。それにより，必要とする資料や情報を共有しやすくなり，共通のめあてをもって調べ学習ができる。また，子ども同士で教え合い協力し合いながら，個々でするよりも深い学びができる。切実感のある課題をグループで解決しようとすることで，課題意識を高めていくことができる。個々の考えを修正したり，より確立したりする場となる。

学習経過や学習成果を交換・交流する場

〔全体学習〕

ＣＨＡＮＧＥにおける全体学習は，ひとり学習，グループ学習を発展させる場であり，それぞれの考えを伝え合い響かせ合う場である。各自，あるいは各グループの考えを伝えることで，大勢の子どもたちがその考えを共有できる。また，仲間の意見を聞く中で，課題に対して調べ直しや考え直しの必要性を感じ，ひとり学習，グループ学習への意欲も高まる。ひとり学習，グループ学習の充実によって全体学習が深まり，また，全体学習の深まりによって，次のひとり学習，グループ学習につながっていく。

４．研究の評価

ＣＨＡＮＧＥにおいては，自己の変容を可視化するために，単元の導入・活動の節目・終末に作文を書いて，自らの変容を確かめるようにする。一人ひとりが個人ファイルに調べてきたことや考えを蓄積していくことで，新たな課題を見つけ，学びを深めるようにする。そして，教師は，子どものひとり学習を個人ファイルや発言などでみとると共に，その変容を把握し，個々の学びを評価する。全体学習では，互いの考えを伝え合う活動を通して，話し合いによる学びの質の深まりをみとり，評価する。また，学習の流れ，個人の思いが可視化できるように，板書の工夫や振り返りの作文を書かせることで，自己への認識を更新し，新たな視点で思考することができる子どもを育てていく。